

1 単元 武道 「剣道」

2 指導観

- 武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元で取り扱う「剣道」は、竹刀を使って、基本となる技や得意技を用いて相手と攻防を展開しながら、互いに「有効打突」を目指して相手の構えを崩して打ったり、受けたりして勝敗を競い合う運動である。学習内容としては、礼儀作法や体さばき、構え、基本打突の仕方などの基本動作や、しかけ技や応じ技などの対人的技能、ルールやマナー、審判の仕方などの試合の運営の仕方がある。それらを学習していくことは、日本の伝統や文化を学ぶことができるだけでなく、相手を尊重する態度や勝敗に対する公正な態度もまた、育成できるものとして考えられる。したがって、本単元を学習させることは、中学生期の生徒をよりよい方向へ導く手段として、大変意義深いものとして捉えた。

- 本学級の生徒は、1年生男子 名・2年生男子 名、合計 名である。明朗快活で、部活動や地域のスポーツクラブなどに所属し活躍している生徒が約81%(/)で、日常的に身体活動を行っている生徒が多いことが分かる。事前アンケートの結果によると、「体育の授業が好きですか」という質問に対して、「はい」と答えた生徒が約94%(/)を占め、体育の授業についても好意的に捉えている生徒が多い。そのためか、体育の授業においては、保体委員やリーダーを中心に意欲的に取り組んでいる。

剣道に関して、2年生は昨年度、剣道を専門とする教師のもとで剣道の授業を受けている。剣道部員はいないが、授業の中で剣道における基本的な礼法や着装の方法、素振りなどの基本的な動作を中心に学習してきた。一方で、1年生で剣道経験のある生徒は1名で剣道部員ではなく、それ以外の生徒は全くの初心者である。事前アンケートの結果によると、約44%(/)の生徒が剣道に興味があると回答している。昨年度剣道を経験した2年生の生徒の半数以上が、剣道に興味がないと回答していることが分かる。また、「今のあなたにとって剣道はどのような印象ですか(複数回答可)」という質問に対しては、「楽しいもの」約42%(/)、「簡単なもの」約3%(/)、「難しいもの」約64%(/)、「楽しくないもの」約17%(/)であった。つまり、剣道を難しいと思っている生徒が少なくないことが分かる。以上のことから、剣道に興味をもたせ、剣道が難しいというイメージを払拭するような手だての工夫が必要だと考えられる。

- 指導にあたっては、剣道をはじめて経験する生徒を考慮する必要がある。剣道に対する興味・関心を高めさせ、礼法を重んじ、習得した技能を駆使しながら相手と勝敗を競うことの楽しさを味わわせたい。そのために、まず、オリエンテーションを行う。その際、視聴覚教材を用いることによって生徒の興味・関心を高める。また、毎回の授業で用いる個人カードの使い方の説明も行っておく。次に、剣道における基本動作を身につけさせる。体さばきや素振りなどについては、適宜レクレーショ的な要素を加え、楽しく基本動作が体得できるように工夫を凝らす。昨年度経験している2年生があらゆる場面で1年生をリードさせる。さらに、着装と対人的技能の習得を図る。面打ちと胴打ちを用いたごく簡単な試合を、自由の練習の延長として毎回数分設けることで、実戦に向けた生徒のモチベーションが高まるようにする。最後に、学習のまとめとして団体戦を行う。団体戦後、個人カードなどを用いて単元全体を振り返らせ、単元のまとめとする。

すべての時間を通じて、昨年度剣道を経験している2年生が、初心者の多い1年生に教える場を多く設定したい。そうすることで、異学年間の交流を図って相互理解を深め、今後の異学年での共習での活動、例えば体育大会における組体操などにおいても、好意的な結果をもたらすことと期待している。

3 単元の指導目標

- 剣道の特性を理解し、伝統的な作法に留意して、互いに相手を尊重し練習や試合ができるとともに、安全に留意して活動することができる。
- 自己の能力に適した技の習得をするための練習の仕方を工夫することができる。
- 剣道の基本動作や対人的技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開し練習や試合ができる。
- 剣道の特性を理解し、ルールや技能の基本的な知識を理解することができる。

4 計画（7時間） 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能 知：知識・理解

次	時	学習活動・内容	目標達成のための手立て	評価規準 <評価の方法>
一	1	1. オリエンテーションを通して剣道の特性やルール、学び方を理解する。 ・ 剣道の特性とルール ・ 授業の進め方 ・ グループ編成 ・ 個人カードについて	○剣道の特性、授業の進め方を説明する。 ○視聴覚教材を用いることで、生徒の興味・関心を高める。 ○グループを異学年混合で構成させ、異学年間の交流が図れるようにする。 ○個人カードの活用方法を説明する。	関：視聴覚教材に関心を持ち、剣道の特性を理解しようとする。 <活動内容チェック> 思：個人カードの活用方法を理解し、具体的な課題を見つけることができる。 <個人カード分析>
二 本 時 3 / 7	2	2. 剣道における基本動作を習得する。 ・ 礼法 ・ 構え ・ 体さばき ・ 素振り ・ 面打ち	○2年生がお手本を示し、学習活動を進めていく。 ○体さばきに関しては、すり足での鬼ごっこすることで、楽しみながら習得させる。 ○グループ内で異学年のペアを組ませ、2年生が1年生に教える場を設けるようにする。 ○アドバイスしあう時間を統一して設けることで、グループ内の助け合いの心を高める。	関：礼儀作法を意識し、互いに協力して練習を行おうとする。 <活動内容チェック> 思：正しい基本動作を身につけようと、仲間と協力しながら工夫して練習することができる。 <個人カード分析> 技：正しい礼法と、面打ちを実践することができる。 <活動内容チェック> 知：正しい礼法と、面打ちを知る。 <活動内容チェック>
三	3	3. 剣道具の着装方法を身につけ、実際の面打ちと胴打ちを身につける。 ・ 防具のつけ方 ・ 面打ち ・ 胴打ち	○2年生がお手本を示し、1年生に教えられるように場を設定する。 ○対人的技能である技を練習させ、自分の得意技を見つけさせる。 ○積極的に声を出させ、お互いに声かけをさせる。 ○効果的な技や声の出し方が実践できているか確認し、状況に応じてアドバイスをする。	関：礼儀作法を意識し、互いに協力して練習を行おうとする。 <活動内容チェック> 思：工夫した練習を行うことができる。 <個人カード分析> 技：正しく着装することができる。 <活動内容チェック>
四	1	4. 単元全体の学習を振り返り、まとめをする。 ・ 簡易試合（面打ち・胴打ち） ・ 評価活動	○相手の動きに応じた技や審判の仕方を身につけさせる。 ○個人カードを用いて授業全体の自己評価を行い、活動内容を振り返らせる。	思：自己の能力に適した作戦を立て、試合ができる。 <個人カード分析> 技：習得した対人的技能を、試合に活用することができる。 <活動内容チェック> 知：剣道の特性やルール、試合の進め方を理解することができる。 <定期テスト>

5 本時 平成22年10月 日 () 限目 第二次の2 本校武道場

(1) 本時の指導観

生徒は前時までに礼法や構え、体さばきの方法、素振りの仕方の説明を受け、理解しつつある。全体的に積極的に取り組んではいるものの、その理解はまだ不十分であり、技能として身につけていない生徒が多い。また、対人的な打突の学習活動には至っていない。

そこで本時では、前時までに行った活動を身につけさせるために、竹刀の持ち方と振り方を再度確認してから、礼法と面打ちについての理解を深める学習活動を展開していく。そのためにまず、前時の内容を振り返り、本時の流れとめあてを確認させる。次に、打突時に必要な体さばきと竹刀の持ち方や振り方を確認する。さらに、グループ別に打突の練習を行う。2年生が1年生にポイントを教えられるように異学年でペアを組ませ、学年によって学習目的が異なるように配慮する。最後に本時の活動を振り返らせ、次時の活動の目標を持たせる。

(2) 主眼

- (1年)正しい礼法と、面打ちを知る。
- (2年)正しい礼法と、面打ちを身につけることができる。

(3) 準備

- ①フラッシュカード ②ホワイトボード ③竹刀 ④太鼓 ⑤個人カード

(4) 過程

学習活動・内容	準備	手立て<○>と評価<◆>	形態	配分
1. 学習の準備をする。 ・集合、整列 ・号令走、準備体操、補強運動 ・挨拶 ・出欠確認、健康観察		○チャイム前から号令走をはじめ、よりスムーズに授業が始められるように促す。 ○出欠、健康観察、見学者、忘れ物を確認する。 ○大きな声を出すように促すことで、体育に対する心の準備をさせる。	一斉	7
2. 本時の流れとめあてを確認する。 《学習のめあて》	①②	○前時の内容を振り返り、本時のめあてを確認して、学習の見通しを持たせる。 ○5つのポイント(礼法・気合い・一足一刀の間合い・打突・残心)を理解させる。	一斉	8
1年:正しい礼法と、面打ちを知ろう。 2年:正しい礼法と、面打ちを身につけよう。				
3. 竹刀の持ち方を確認し、正しい振り方の練習を行う。 ・正面打ち ・跳躍素振り(2年のみ)	③	○竹刀の持ち方については、左手首の返しを意識させる。 ○竹刀の振り方については、胸を張ることや足の位置、左手を軸に肩で振ること、手首を伸ばすことを意識させる。 ○2年生にお手本を示させる。	グループ	10
4. グループ別に教えあいながら、練習をする。 ・相手の竹刀を打突部に見立てての打ち込み	③④	○移動する方向を左に統一させることで、安全に留意して活動させる。 ○気合い→打突・残心を、太鼓を用いて行う。 ○グループ内で異学年のペアを組ませ、2年生が1年生に教える場を統一して設けるようにする。 ◆知:(1年)正しい礼法と面打ちを理解し、実践しようとしているか ◆技:(2年)正しい礼法と打突ができているか <活動内容チェック>	グループ	20
5. 本時の活動を振り返り、次時の予告を聞く。	⑤	○本時のめあてについて振り返らせ、次時の目標を持たせる。 ○本時のまとめと次時の予告をする。	一斉	5

